

# プールサイダーにはならないで！！

立教大学 S47年卒 高 樋 澄 人

前回寄稿で丁度私と10年違う栗田君からの 還暦になってからのダンスの魅力についてを拝読し、今回私も同じように、ダンスを止めないでとの思いから寄稿します。

昭和57年立教大学舞踏研究会は創立35周年を迎え、その記念誌に元総長 松下 正寿先生（当時全日本学生舞踏連盟名誉会長・立教大学舞踏研究会名誉会長）から祝辞を頂戴しました。

## 一部抜粋

この機会に私は現役並びにOB・OGの諸君に切望したいことがある。それはダンスをやめないことである。世にプール・サイダーという奇妙な存在がある。

自分ではプールに入って泳ぐことは絶対にしない。プールの側で泳ぐ人を眺めて、「あれはいい」「あれは駄目だ」と批評ばかりする。それをプール・サイダーと称する。私は泳ぎでもダンスでもそれを見て、批判してはいけないとは思わない。批判は結構である。

しかし、泳ぎもダンスも体でやるものである。そして泳ぎもそうであるが、特にダンスは実際やって見なくてはその楽しみも苦しみもわかるものではない。

ダンスは当然のことながら、体でやるべきものであって口を動かして言葉でやるべきものではない。然るに誠に残念であるが、学生時代の選手は学校を卒業すると「OB・OG」に収まって仕舞って、ダンスをやらなくなる。仕事が忙しいとか色々口実はあろうが、口実は結局口実に過ぎない。

私は学生時代に熱心に練習し、相当高い技術を身に着けている人が、プール・サイダーになっているのを見て非常に残念に思う。

私を見習ってもらいたい。私は81歳と7か月である。しかしダンスにおいては現役中の現役である。であるから私の頭は衰えない。ダンスとは頭で足に命令する行為である。逆も又真なり。

足が確かであれば頭も確かである。故に私は「忙しいから」などという口実を設けず、1週間に1度でもいいから練習を継続することを切望して創立35周年を迎える辞とする。

今から36年前のお言葉である。丁度立教大学競技ダンス部も平成29年に創立70周年を迎え、この当時の倍の年月を費やしました。

どうでしょうか！ OB・OGの皆様はプール・サイダーになっていませんか？特に私達団塊の世代に近い人達にプール・サイダーが多いように思えます。忍び寄る老化に対し今からでも遅くありません。ダンスを始めましょう。

と言う私は（幹事長 菊地君の度重なる要請を固辞しつつ）現在、週3日ダンスに通い心身を鍛えています。

私の周りの人は皆私よりずっと年上、それでも喜々としてダンスを楽しんでいます。

昨今、我が舞踏研究会OB・OG会（赤レンガ倶楽部）は先のOB・OG戦で2度目の優勝を果たし、明年3月には2連覇がかかっています。2連覇の必勝を祈念しつつ寄稿とします。

以上